

86. INT. ユマのアパート — 夜

恭子は、乱暴にユマ部屋に押していく。

ユマのノートパソコンを開き、ユマが撮影したひわいな写真を見せる。

恭子

「説明しなさい！」

ため息をつくユマ。開き直る。

ユマ

「漫画の仕事のために撮っただけだって」

恭子

「どんな仕事なの！」

ユマは机の引き出しから人口ペニスを引っ張り出す。悲鳴をあげる恭子。

ユマ

「これはただの資料なの。
これ使って漫画を描いてるだけだって」

恭子

「あのアバズレとつるんでるからこんなとに…」

ユマ

「アバズレ？ 舞さんのこと言ってるの？」

ユマから人口ペニスを取り、ゴミ箱に投げ捨てる恭子。引き続いて漫画も本棚から投げ捨てる。

ユマ

「やめてよ！

舞さんはアバズレなんかじゃない！
あの人は人助けしてるだけなんだから」

恭子

「人助け？ お金もらって男と寝る女が人助けっていうの？」

ユマ

「お母さん何もわかってない。
お母さんがそんなだからお父さんが出て行ったの
まだわかんないの？」

ユマを平手打ちする恭子。

恭子

「あんたに何がわかるっていうの…」

ドアを閉め、外から鍵をかける。

ユマ

「お母さん！」

足音をたてながら廊下を歩いていく。ユマは全力でドアを押すがビクともしない。